

令和5年度指定管理鳥獣捕獲等事業（ニホンジカ）の捕獲と

生息状況調査の結果

指定管理事業および生息状況調査の結果については保護管理ユニット単位でとりまとめる。

1 捕獲の実施結果（県中部区域）

1-1 令和5年度事業における捕獲結果

- 155頭を捕獲し、目標捕獲数100頭の約1.5倍の結果であった。
- ユニット別CPUEではI2が最も大きく15.14、次いでI1で10.6だった。
- 大多喜町は市原市と比較してCPUEが6.09と小さかった。
- O10（大多喜町）では38頭捕獲されたが、そのうち幼獣は1頭のみ捕獲された。
- 成獣メス割合は市原市の4ユニットでは20%未満で、大多喜町のO10では52.6%となった。

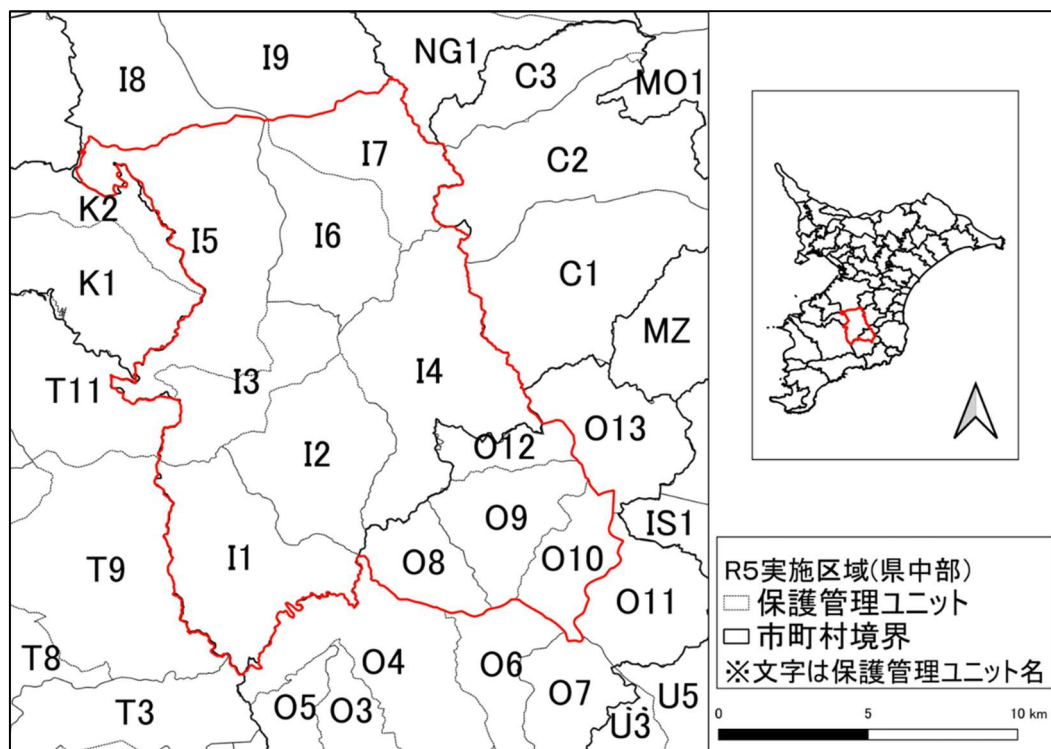


図1-1 事業区域および周辺の保護管理ユニット

表 1-1 ユニットごとのわな捕獲の作業及び捕獲状況

市町村	ユニット	わな日	捕獲数	CPUE	空はじき率 (%)	成獣メス割合 (%)	幼獣割合 (%)	オス割合 (%)	幼獣/成獣メス比
市原市	I1	5,377	57	10.60	8.55	7.0	73.7	31.6	10.5
	I2	1,387	21	15.14	11.54	4.8	71.4	57.1	15.0
	I3	1,030	7	6.80	73.79	14.3	57.1	57.1	4.0
	I4	306	0	0.00	16.34	0.0	0.0	0.0	
	I5	5,686	32	5.63	41.51	3.1	75.0	34.4	24.0
	I6	102	0	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0	
	I7	515	0	0.00	56.31	0.0	0.0	0.0	
大多喜町	O10	6,240	38	6.09	4.97	52.6	2.6	44.7	0.0

※わな日はわな数×わな稼働日数により算出した。

※CPUEは(捕獲数/わな日)×1000、空はじき率は(空はじき/わな日)×1000とした。

※オス割合は成獣オス・幼獣オスの合算値である。

※幼獣/成獣メス比は幼獣個体数を成獣メス個体数で割った値である。成獣メス捕獲数が0の場合は空欄で示した。

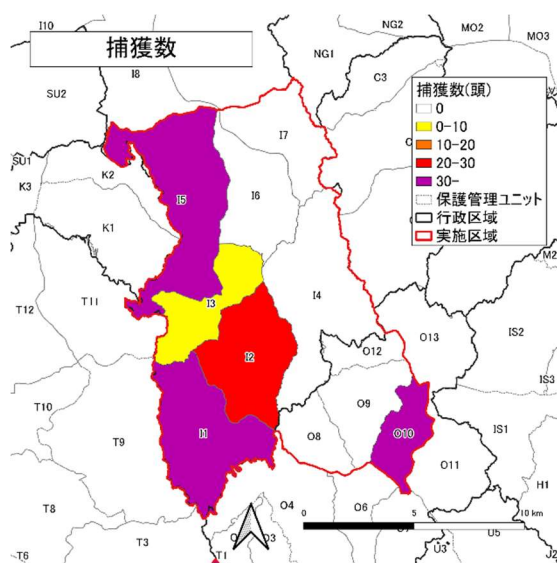


図 1-2 捕獲数

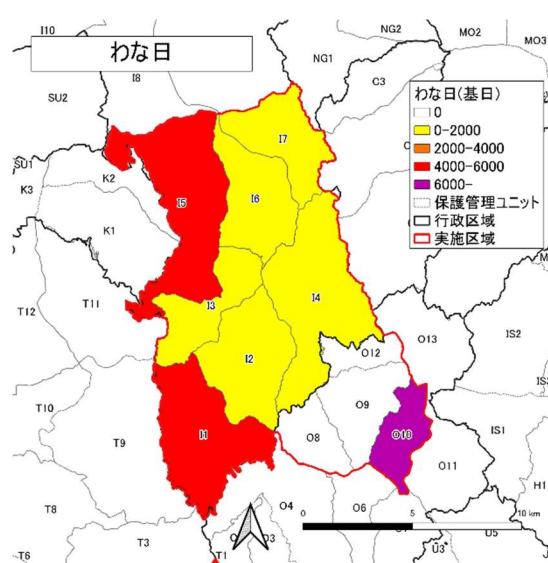


図 1-3 わな日

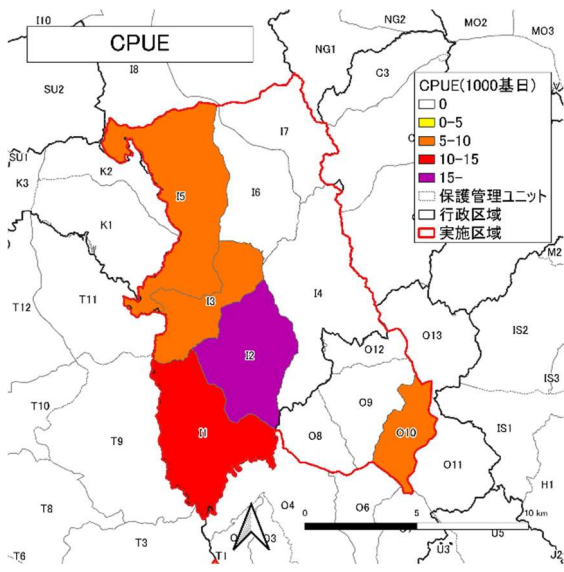


図 1-4 CPUE

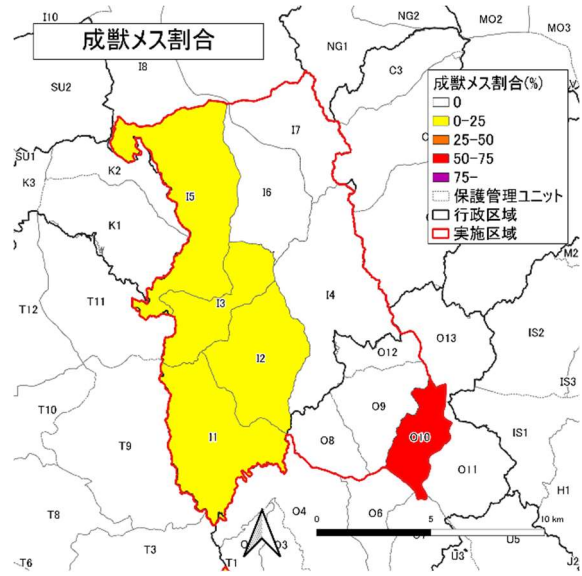


図 1-5 成獣メス割合

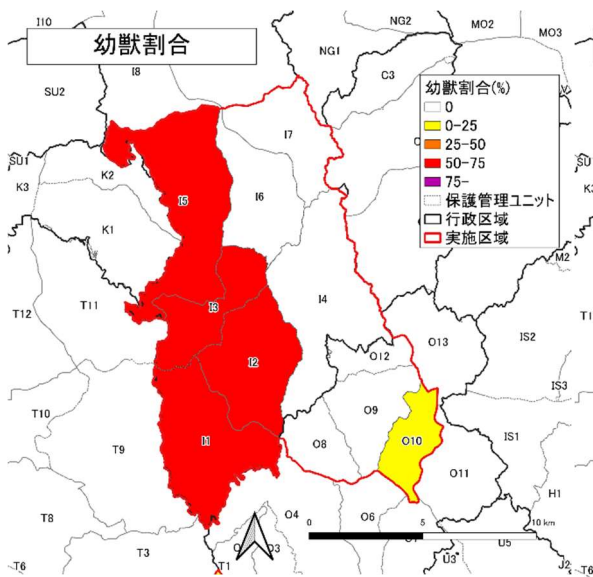


図 1-6 幼獣割合

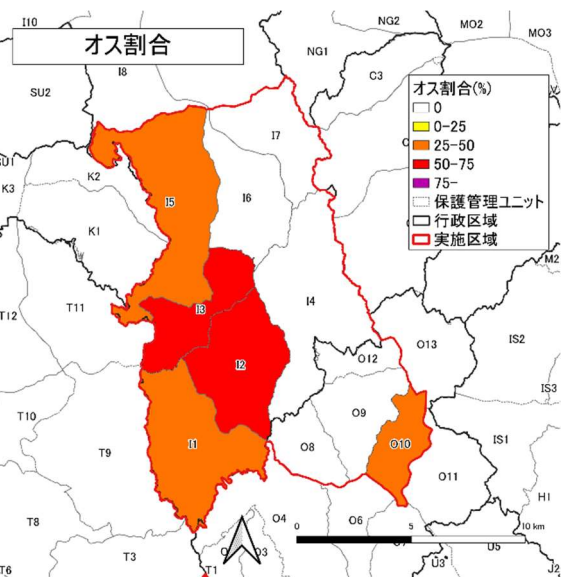


図 1-7 オス割合

1-2 令和3～5年度事業における捕獲結果

- 全域では令和4年度と比較して、令和5年度のわな日は減少したものの、CPUEは増加した。
- 令和4年度と比較して、令和5年度の幼獣割合は55.48%と高い値を示した。ユニット別ではI1、I2、I5で70%以上の非常に高い値となった。I2、I3、I5では令和3年度から幼獣の捕獲割合が増加傾向を示していた。
- 全域では成獣メス割合は令和3年、4年と比べて減少した。大多喜町のO10ユニットでは高い成獣メス割合を示したものの、市原市では10%前後の低い値を示した。



数値小

数値大

表1-2 令和3-5年度のわな数

		R3	R4	R5
市原市	I1			62
	I2	95	63	16
	I3	96	84	11
	I4	8	24	3
	I5	8	24	55
	I6			1
	I7			5
大多喜町	O10		80	60
	O9	80		
中部全域		287	275	213

表1-3 令和3-5年度のわな日

		R3	R4	R5
市原市	I1			5,377
	I2	4,880	4,020	1,387
	I3	4,818	3,144	1,030
	I4	349	1,716	306
	I5	3,135	4,916	5,686
	I6			102
	I7			515
大多喜町	O10		8,560	6,240
	O9	8,400		
中部全域		21,582	22,356	20,643

表1-4 令和3-5年度の成獣メス割合

		R3	R4	R5
市原市	I1			7.02
	I2	27.59	25.00	4.76
	I3	23.53	20.00	14.29
	I4	40.00	21.43	0.00
	I5	40.00	21.43	3.13
	I6			0.00
	I7			0.00
大多喜町	O10		64.29	52.63
	O9	48.48		
中部全域		33.64	38.66	17.42

表1-5 令和3-5年度の幼獣割合

		R3	R4	R5
市原市	I1			73.68
	I2	10.34	40.00	71.43
	I3	35.29	20.00	57.14
	I4	0.00	35.71	0.00
	I5	0.00	35.71	75.00
	I6			0.00
	I7			0.00
大多喜町	O10		0.00	2.63
	O9	6.06		
中部全域		14.95	21.01	55.48

表 1 - 6 令和 3 - 5 年度のオス割合

		R3	R4	R5
市原市	I1			31.58
	I2	68.97	40.00	57.14
	I3	58.82	60.00	57.14
	I4	60.00	50.00	0.00
	I5	60.87	57.58	34.38
	I6			0.00
	I7			0.00
大多喜町	O10		35.71	44.74
	O9	45.45		
中部全域		57.94	46.22	40.00

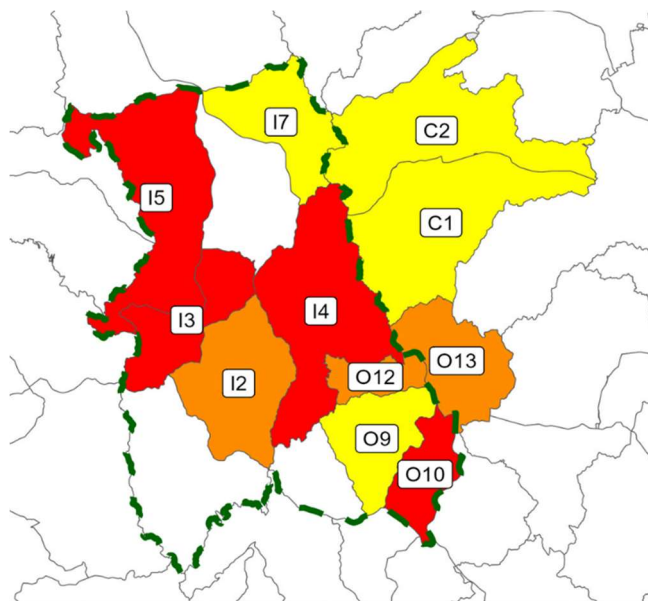
表 1 - 7 令和 3 - 5 年度の CPUE
(1000 基日)

		R3	R4	R5
市原市	I1			10.60
	I2	5.94	4.98	15.14
	I3	3.53	3.18	6.80
	I4	14.33	8.16	0.00
	I5	1.59	2.85	5.63
	I6			0.00
	I7			0.00
大多喜町	O10		4.91	6.09
	O9	3.93		
中部全域		4.96	5.32	7.51

2 生息状況調査の結果（県中部区域）

2-1 令和5年度調査結果

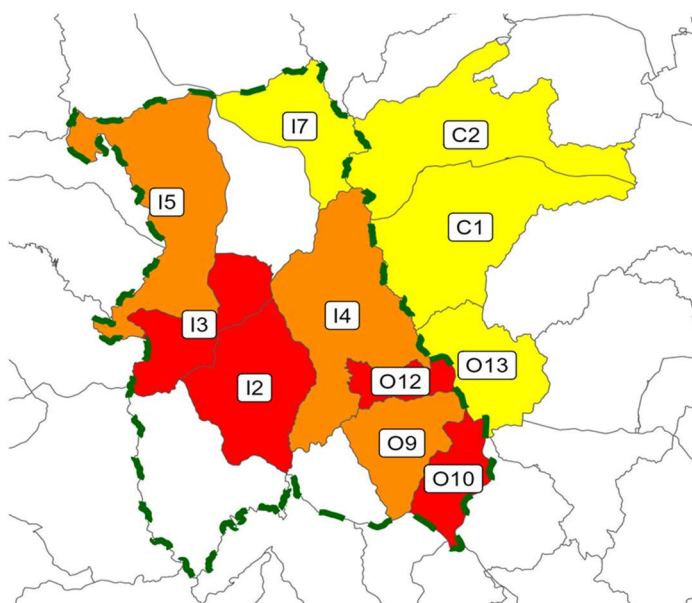
- すべてのユニットにおいてニホンジカが撮影された。市原市のユニット I3 の撮影頻度が最も高かった。
- すべてのユニットにおいてニホンジカ成獣メスが撮影された。市原市のユニット I3 の撮影頻度が最も高かった。



一日あたりのシカの撮影枚数 (f)

Yellow	$0 < f < 0.97$	Red	$2.3 < f$
Orange	$0.97 < f < 2.3$		

図2-1
ユニット別のシカの撮影頻度
(令和5年1月～12月)
※緑の破線(---)は
令和5年度実施区域



一日あたりのシカ成獣メスの撮影枚数 (f)

Yellow	$0 < f < 0.25$	Red	$0.9 < f$
Orange	$0.25 < f < 0.9$		

図2-2
ユニット別のシカ成獣
メスの撮影頻度
(令和5年1月～12月)。
※緑の破線(---)は
令和5年度実施区域

2-2 経年変化

- 撮影頻度は市原市の I2、I5、大多喜町の O9、12 を除いたユニットにおいて、増加が確認された。市原市の I3、I4、I7、大多喜町の O13 は令和3年度から令和5年度にかけて継続して増加傾向だった。
- 成獣メスの撮影頻度は、市原市は全てのユニットで、大多喜町では O10、O13 のユニットにおいて、増加が確認された。市原市の I3、I4、I5 は令和3年度から令和5年度にかけて継続して増加傾向だった。

表2-1 令和3年度～令和5度のユニットごとの撮影頻度の比較（枚/日）

市町村名	ユニット	R3	R4	R5
市原市	I2	-	2.96	2.19
	I3	0.65	2.91	4.93
	I4	0.49	2.35	2.37
	I5	0.55	2.52	2.42
	I7	0.02	0.09	0.23
大多喜町	O9	0.24	0.97	0.74
	O10	-	4.07	4.31
	O12	1.01	2.28	1.83
	O13	0.28	0.83	1.01

表2-1 平成27年度～令和5度のユニットごとの成獣メスの撮影頻度の比較（枚/日）

市町村名	ユニット	R3	R4	R5
市原市	I2	-	0.82	1.12
	I3	0.37	1.09	2.71
	I4	0.18	0.76	0.86
	I5	0.28	0.72	0.87
	I7	0.01	0.00	0.02
大多喜町	O9	0.06	0.56	0.38
	O10	-	2.21	2.60
	O12	0.43	1.08	0.92
	O13	0.12	0.04	0.20

頻度低



頻度高

「-」：調査されていない、もしくはカメラ設置期間が6か月以下のものは比較対象外とし、データ無し。
※1～11月の期間で得られたデータを集計した。